

## 【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2023年2月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

### トルコで地震 マグニチュード7.8

トルコ南部ガジアンテプ県付近で6日午前4時過ぎ、マグニチュード（M）7.8の地震があった。トルコや隣国シリアの当局などによると、1,900人以上が死亡し、9千人以上が負傷した。倒壊した建物のがれきの下に多くの人を取り残されていると見られ、被害拡大のおそれがある。余震も断続的に続いており、午後には、トルコ南部で新たにM7.5の地震があった。震源の深さは10キロ。日本政府は、捜索、救助を行う国際緊急援助隊・救助チームの先発隊を派遣した。トルコのエルドアン大統領は、2,800以上の建物が倒壊したと明らかにし、死者がどれだけ増えるかわからないと述べた。シリアでも多くの建物が崩壊し、北部アレッポ県や北西部ラタキア県などで多数の死傷者が出ているという。

（ニュースダイジェスト 2023年2月7日より）

①災害の被害を最小限に抑えるためにはどのような対策が必要か？

②都市化が進む原因は？ それを抑制することは可能か？

③日本が世界に対してできることは？

※次ページの解説も参考にしよう！

## 今月のSDGs

※ 北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール 11 について解説いただきました。

11 住み続けられるまちづくりを



### 住み続けられるまちづくりを

2月にトルコやシリアで大きな地震が発生し、5万人以上の方が亡くなるという大惨事となりました。1995年の阪神淡路大震災では、死者・行方不明者は約6,000人、2011年の東日本大震災では約22,000人とされていることから、今回の地震の被害がいかに大きかったかわかるでしょう。多くの建物が崩壊し、その建物の下敷きになってしまったと報道されています。過密化した都市に脆弱な住環境が重なると、このような甚大な被害につながるのです。

もう一つ、都市部での被害を甚大化させていると言われているのが地球温暖化です。わが国では、集中豪雨による被害が毎年のように発生するようになってしまっています。IPCC<sup>(\*)</sup>の報告書によると、地球の平均気温が産業革命の頃から1.1℃上昇しており、雨の降り方も集中化する傾向にあると指摘しています。

加えて、世界では急速に都市化が進行しています。国連の関連機関の分析によると、現在世界人口の約55%が都市に住んでいて、この割合が2050年には68%に達するとしています。今後都市はますます過密になっていくことが予想されます。

都市化は、災害の被害を甚大化されるだけでなく、地球環境や私たちの社会生活にも悪影響を及ぼします。大気汚染、不衛生、犯罪、交通事故といったさまざまな問題の原因となっています。

SDGs 11番「住み続けられるまちづくりを」では、「都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする」という目的に向かってさまざまなターゲットが設定されています。

ターゲット11.bでは、「仙台防災枠組 2015-2030」に沿った取り組みが期待されています。これは、2015年に宮城県仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」で採択された災害に対する世界的な対応指針です。災害の危険性をしっかり把握して、対応することの重要性や、災害が発生した際の早急な回復が優先的に取り組むべき項目として挙げられています。また、そこには、国際協力の必要性も書き込まれていて、各国が協力して、できるだけ災害が発生しないようすること、発生しても被害を最小限に抑えるための準備をすること、早急な回復に努めることをめざしています。このことは、SDGs 17番「パートナーシップで目標を達成しよう」にもつながる目標です。

災害はいつ発生するかわかりません。個人や家族レベルでの防災や発生時の対策をすることは重要なことですが、社会全体で準備・対応することも重要なのです。

\* IPCC (The Intergovernmental Panel On Climate Change・気候変動に関する政府間パネル)  
世界各国の科学者、研究者がさまざまな角度から地球環境に関する調査研究を実行している機関